

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2026年1月17日		～ 2026年2月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2026年1月17日		～ 2026年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	2026年1月17日		～ 2026年2月13日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・訪問先、保護者の意見どちらかに偏ることなく、3者間での共通理解を大切にしながら訪問支援を行なっている。	・訪問支援の希望があった際は、保護者・訪問先・事業所で会議の場を設け、訪問支援の必要性や目標となる部分、介入が必要な場面の話し合いをしている。	・引き続き3者間での共通理解を持った上で訪問支援が行えるよう取り組んでいく。
2	・必要に応じて多職種連携での訪問が行えること。	・訪問支援での介入の際に、事前に目的や課題となる部分話し合う機会を持つことで、ケースによって多職種での介入が有効と考えられる場合には保護者の同意を得て多職種連携での訪問を行なっている。	・多職種連携での訪問のケースが増えてきた際は、振り返りを行いながら活かせる強みや改善点などを検討し、より良い支援が行えるようにしていく。
3	・訪問支援を通して訪問先との信頼関係を築くことができ、訪問時に限らず普段の様子等でも相談を受けることが増えていくと感じる。	・訪問支援に伺い、お子さんの姿や成長を共有する中で、先生方との信頼関係の構築に努めている。	・訪問支援での連携に限らず、普段の担当者会議等の機会も活用しながら、地域の園との連携を図れるように周知していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・訪問支援の頻度について	・訪問先での課題に対しての介入を目的としているため、訪問先での姿が落ち着いて過ごせている、訪問先での関わり方を先生方が工夫して実施出来ている等の場合は、訪問支援が必要と感じる時に連絡を頂く形をとっている。	・これまでの実施方法で問題なく支援が行えているケースも多い。具体的な課題に対しての介入だけでなく、定期的に介入することで継続した共有を求める意見や、実際の取り組みへのフィードバックの要望も聞かれた。ケースごとのニーズをしっかりと把握しながら、それぞれのケースに対して必要な頻度で訪問できるように取り組んでいく。
2			
3			